

先駆的取組のポイント

人・牛・環境にやさしいオーガニック牛乳の生産

北海道津別町 津別町有機酪農研究会 山田 照夫 会長

概要

- ・ 農地集約・規模拡大が困難な中山間地域で、高品質・高付加価値の牛乳生産を目指した研究会を酪農家有志で立ち上げ。
- ・ 無農薬・無化学肥料による粗飼料生産等に取り組み、JAS有機牛乳（国内認定第1号）を製品化。洞爺湖サミットにも提供。
- ・ 子どもを対象とする酪農体験や修学旅行の受入など、都市農村交流への発展により、農業の応援団づくり、地域活性化に貢献。



無農薬・無化学肥料で牧草や粗飼料を自給生産



牛乳では国内第1号の有機JAS認定を獲得



地域の子どもの対象にした酪農体験

ポイント

- ・ 大量生産には不利な地理条件を逆手にとり、環境保全や安全・安心に配慮した牛乳生産を消費者の目に見える形（有機JAS認定）で実現。
- ・ 他所では手に入らない牛乳生産が応援団づくり、都市農村交流に発展。

女性たちが切り開いた新たな経営参画

宮城県加美町 農事組合法人 やくらい土産（どさん）センターさんちゃん会
加藤 重子 代表理事組合長

概要

- ・子ども達が夢をもって暮らせるような地域づくりを目指し、町の直売施設「土産センター」に生産物を納入・販売する組織として「さんちゃん会」を設立（のちに法人化）。
- ・「新鮮・安心・安い」をモットーに、地元産の旬の農産物や加工品を販売。女性・高齢者を中心に組合員210人を擁し、年間客数24万人、売上2.4億円と地域経済に大きく貢献。
- ・さらに、漬物、惣菜、菓子などの製造販売、農家レストラン、農家民宿の経営など女性中心による起業が次々と誕生（平成19年度までに31件）。



地域活性化の核となった直売所



女性が起業した農家レストラン・農家民宿



地域全体に広がったグリーン・ツーリズムの取組



ポイント

- ・女性の役割は家庭を守ることとされていた従来の考えを打ち破り、直売施設の整備を契機として、女性のネットワークを活かした新たな取組を次々と展開。
- ・先駆的取組として、直売所サミットの開催、講演活動等により県内外へ取組を拡大。

保田漁協都市と漁村のふれあい構想

千葉県鋸南町 鋸南町保田漁業協同組合 柴田 三喜男 代表理事組合長

概要

- ・ 将来の厳しい漁協経営を見通して、水揚げした魚介類の単なる販売にとどまらず、海洋レクリエーションに着目した第3次産業に着手。
- ・ プレジャーボート受入等のほか、「魚のことは誰よりもよく知っている」漁師の強みを活かして漁師料理の食堂運営。高速道路整備もあって、当地訪問者は年間2万人→45万人と増加。
- ・ 地元で水揚げされた水産物の付加価値を約3倍に向上させ、漁業者の所得向上、地域雇用の創出（約100人）につながっている。



“海業”の中心である魚食普及食堂「ばんや」



漁師料理の提供



花木植栽など地元と連携した観光地整備



ポイント

- ・ 観光拠点を巡回する無料バスの運行など、地域の観光資源と積極的に連携。
- ・ 高齢者への配食サービスなどの福利厚生、資源放流など、利益を地域に還元。

グリーン・ツーリズムに端を発した地域資源活用の取組

長野県飯山市 (財)飯山市振興公社 なべくら高原・森の家 木村 宏 支配人

概要

- ・ 低迷するスキー産業に代わり、四季を通じて誘客を行えるグリーン・ツーリズムでの地域振興を目指し、その拠点として「なべくら高原・森の家」を整備。
- ・ ブナ天然林等の豊かな自然や、農地、里山景観等の地域資源を活用し、地域住民240名がインストラクターとなって、自然体験プログラムを提供。
- ・ ブナ林保全再生活動、長野・新潟県境80kmのロングトレイル（長距離遊歩道）の整備、森林セラピーなど、地域内外で関係者と連携して取組を拡大。



地域資源の中心となるブナ林



周辺自治体と連携して展開する信越トレイル



「森林セラピー基地」として認定



市民インストラクターによる各種体験・里山ボランティア



ポイント

- ・ スタッフの多くが県外からのIターン者。外からの視点で地域資源の発掘や情報発信を実施。
- ・ 地域に散在する多様な地域資源、活動をつなぐネットワークを形成。

米粉パンの万葉の郷ぬかづか

滋賀県東近江市 農事組合法人 万葉の郷ぬかづか 加工部 野矢 静江 前部長

概要

- ・ ほ場整備を契機に一集落一農場方式の集落営農の取組を開始。協業化で時間的余裕ができた女性や高齢者の労力を活かせるよう農産物加工施設、直売施設を整備。
- ・ 集落で獲れた農畜産物を加工した米粉パン、アイスクリームなどを製造販売。
- ・ 米粉製品は市内保育園にも納入しているほか、小中学校の職場体験学習を受け入れ。



地元産コシヒカリや牛乳などを使った加工品



女性や高齢者の雇用の場



子供たちのの体験学習や食育にも貢献

ポイント

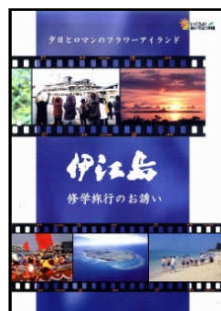
- ・ パンやクッキーなど米粉製品の製造・開発を全国的にも早い段階で開始。先駆けとして多くの視察を受け入れ、他地域へ波及。
- ・ 農業のすばらしさ、地産地消を地域へ発信し、食育へと取組を発展。

ヒューマンツーリズムで元気なふるさとづくり

沖縄県伊江村 社団法人 伊江島観光協会 山城 克己 会長

概要

- ・ 年々観光客が減少する中、日帰り型から滞在型観光への転換を図ることとし、修学旅行生の受け入れを中心とする民泊事業を開始。
- ・ 受け入れ家庭の家業（農業、漁業、商業等）の手伝いを通じて島の暮らしを体験させ、生徒と島民が人間的な交流を深める「ヒューマンツーリズム」を推進。
- ・ 年間受入生徒数2.3万人、民泊収入が6年で65倍増と、地域経済に大きく貢献。



子どもの空き部屋を活用した民泊受入



受け入れ家庭の家業の手伝いや伝統文化に触れて島暮らし体験



民泊受入は島内の高齢者の生きがいに

ポイント

- ・ 村全体で課題となっていた、島外への高校進学のため空いていた子ども部屋を、島外からやって来る子どもの宿泊施設として活用しようという、逆転の発想。
- ・ 修学旅行生の受入、交流は高齢者の生きがいに。